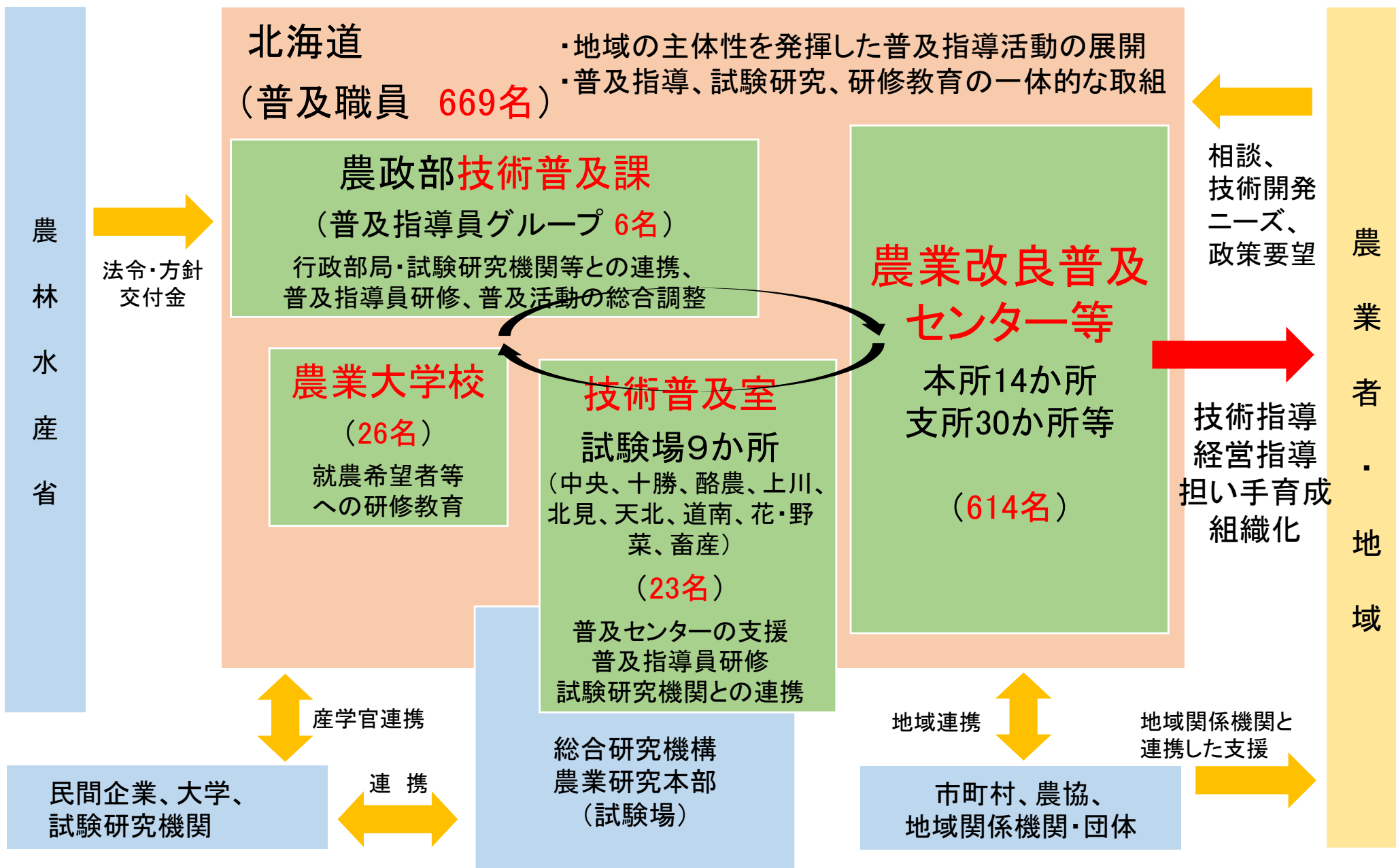


北海道農業・農村を支援する 農業改良普及センターの概要



道の普及事業の仕組み





普及指導員の仕事



● 基本的役割

- ・栽培技術導入の支援
- ・経営管理支援
- ・担い手の育成支援
- ・農業者の組織化・体制づくり
- ・農業施策の活用支援

● 活動方法

- ・新技術の実証・展示
- ・技術の体系化、マニュアル化
- ・巡回指導、相談対応、講習会開催
- ・生育状況や病害虫発生状況の調査
- ・重点地域を対象とした地域振興



新たな品種の導入試験



新規参入者の相談対応



個別巡回



経営管理能力向上を支援



協業法人のミーティングに参加・助言



農業生産法人の設立支援



重点地区講習会

“緊急” 技術情報
～そら全農～

平成22年4月21日 技術情報センター
TEL 011-36-0882 FAX 011-36-0887

育苗管理について

天候不順と低温により移植作業が遅れて、今年も温度が低い状況が数日続く見込み。次の点に留意し、苗の老化を防ぎ定植作業ください。

- 1 夜間には極端な低温にならないように施設を暖めましょう。トンネルや不織布（パオパオ）ジェットヒーター等によるハウス内の温めて下さい。
- 2 苗の温度、かん水管理に注意を払って！
特に、後半は苗の順化を行ってください。
- 3 肥料切れによる「苗の老化」を防ぎましょう。肥料切れによる順化は、順化による定植を行ってください。
- 4 灌水している場合は、速やかに排水に努めてください。

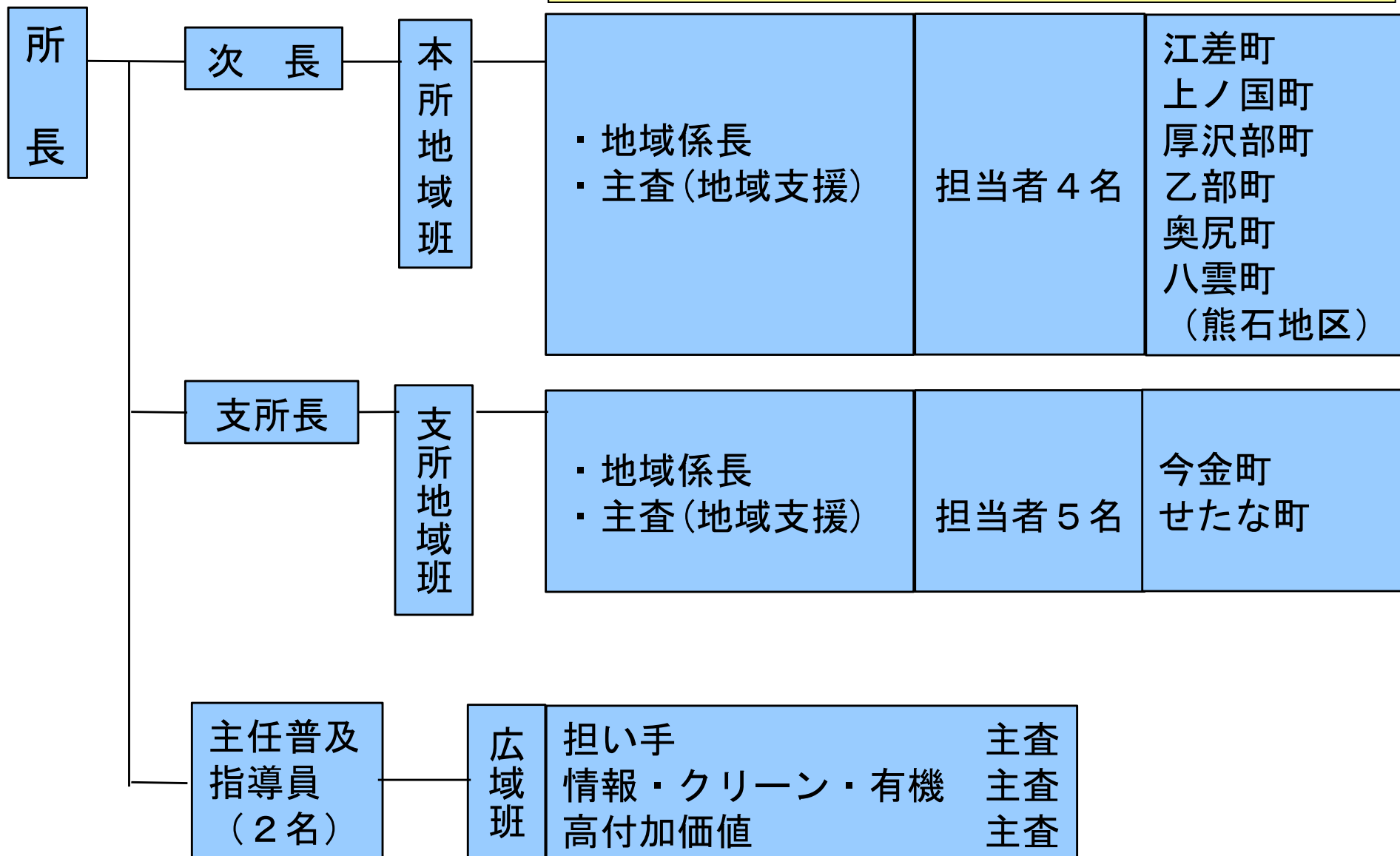
技術資料・栽培マニュアルの作成・提供



檜山農業改良普及センター活動体制



本所 13名(江差町)、支所 8名(せたな町)





檜山農業の推移

- 農家販売戸数2000年:1,988戸→2020年:944戸対比47%
- 65歳以上の割合が48%
- 1戸当たり経営面積2000年:7.9ha→2020年16.3ha対比206%
- 品目別作付面積の推移
 - 小麦、大豆、てんさいの作付は増加
 - 水稲、ばれいしょ、小豆、野菜の作付は減少
- 農業産出額2000年対比(2019年)で84%まで減少



労働力不足に対応したスマート農業、人材確保・育成、労働力確保が重要



檜山農業改良普及センターの活動事例



乾田直播は種（北部支所）
（直播面積は約120ha）

立茎アスパラガスでかん水を中心としたスマート農業の実証（本所）

水稻密播中苗（本所）
（地域水稻面積の約20%）

ロボットトラクタによる水稻可変施肥実演会（北部支所）

道内一の産地である立茎アスパラガスを始め、水稻、畑作などの多様な農業が檜山地域で展開されてます。省力化に向けた活動を積極的に取り組んでいます。